

2021年度

事業報告書



Meitoku  
since 1925

学校法人千葉明德学園

# 目 次

<b>I. 法人の概要</b> -----	1
1. 法人の名称-----	1
2. 事業所の所在地-----	1
3. 建学の精神-----	1
4. 法人の沿革-----	1
5. 設置する学校-----	2
6. 附帯事業-----	2
7. 姉妹法人-----	2
8. 役員-----	2
9. 教職員の状況-----	3
10. 土地及び建物の状況-----	3
11. 学生・生徒・園児の数-----	4
<b>II. 事業の概要</b> -----	5
1. 学園全体の状況-----	5
2. 法人事務局-----	5
3. 千葉明德短期大学-----	6
4. 千葉明德高等学校-----	10
5. 千葉明德中学校-----	14
6. 千葉明德短期大学附属幼稚園-----	16
7. 明德本八幡駅保育園-----	18
8. 明德浜野駅保育園-----	20
9. 明德やちまたこども園-----	21
<b>III. 財務の状況</b> -----	23
1. 事業活動収支の推移-----	23
2. 施設設備への投資額の推移-----	24
3. 借入金の推移-----	24

# I. 法人の概要

## 1. 法人の名称

学校法人千葉明德学園

## 2. 事務所の所在地

千葉県千葉市中央区南生実町1412番地

電話番号：043-265-1611

FAX番号：043-265-1651

URL：<https://www.chibameitoku.ac.jp/>

## 3. 建学の精神

「明明徳於天下者先致其知」 明德を天下に明らかにせんとする者は、先づその知を致せ。

法人名及び開設する全ての学校、施設名に用いられている「明德」は、中国の古典「大学」の一部にある「明明徳於天下者先致其知」（明德を天下に明らかにせんとする者は、先づ其の知を致せ。）を引用したものである。

「明德」の由来は、約2000年昔の中国の古典「大学」にある。「大学」といっても高校を卒業してから行く大学のことではなく、「小学」に対する「大学」の意味である。「小学」とは「小さな学問」、いわゆる、よみ・かき・そろばん、といった個人が生きていくために必要な身の回りの基礎的な学問で、一方、大学は小学よりもっとレベルの高い大きな学問 — 自分が生きるためではなく、世のため、人のためになる学問を意味する。「大学」には、大学を究めるためにはどうしたらよいかのかが次のように書かれている。

「大学の道は明德を明らかにするにあり」

「明德」とは人が天から得たすぐれた能力、人間として生まれながらに持っている人間性であり、明德を明らかにする、とはそれを輝かせる、ということであり、それこそが本学園の使命である。

## 4. 法人の沿革

1925年	1月	千葉淑徳高等女学校 設立 創立者 福中儀之助 初代校長に就任 (千葉市登戸町3丁目)
	4月	開校式 挙行 (定員600名)
1943年	7月	財団法人千葉淑徳高等女学校となる
1947年	5月	学制改革により千葉明德高等学校・同中学校に改組
1951年	1月	学校法人化し、学校法人千葉明德学園となる
1963年	4月	高校男子部の新設
1964年	10月	千葉市中央区南生実町へ全校移転
1966年	5月	体育館 竣工
1967年	5月	千葉明德学園幼稚園 設置認可
1970年	1月	千葉明德短期大学 設置認可
	4月	千葉明德短期大学 開学
1972年	4月	千葉明德中学校最終卒業生高校進学 以後休校 千葉明德学園幼稚園から千葉明德短期大学附属幼稚園に改称

1974年	4月	高校 男女共学となる
1992年	7月	現理事長 福中儀明 理事長就任
2003年	10月	明德本八幡駅保育園 開園
2006年	4月	社会福祉法人千葉明徳会 設立 明德土気保育園 開園
2010年	4月	明德浜野駅保育園 開園
2011年	4月	千葉明徳中学校 開校
2012年	3月	千葉市と「避難所施設利用に関する協定」締結
2013年	4月	社会福祉法人千葉明徳会 明德そでの保育園 開園
2015年	3月	学校法人北総学園と合併
	4月	明德やちまたこども園 開園
2018年	4月	千葉明徳短期大学附属幼稚園 幼稚園型認定こども園に移行
2020年	4月	社会福祉法人千葉明徳会 明德土気保育園 幼保連携型認定こども園 明德土気こども園に移行

## 5. 設置する学校

- (1) 千葉明徳短期大学 保育創造学科
- (2) 千葉明徳高等学校 全日制課程普通科
- (3) 千葉明徳中学校
- (4) 認定こども園千葉明徳短期大学附属幼稚園
- (5) 明德やちまたこども園

## 6. 附帯事業

- (1) 明德本八幡駅保育園（第二種社会福祉事業）
- (2) 明德浜野駅保育園（第二種社会福祉事業）

## 7. 姉妹法人

社会福祉法人千葉明徳会（明德土気こども園・明德そでの保育園を運営）

## 8. 役員（2022年3月31日現在）

理事長	福中 儀明
副理事長	鈴木 總美
理事	由田 新（千葉明徳短期大学学長）
理事	園部 茂（千葉明徳中学校・高等学校校長）
理事	北村 都美子
理事	南 金次（内部監査室長）
理事	木原 稔（事業開発室長）
理事	高浦 芳一
監事	荒木 由光
監事	神子 信行

9. 教職員の状況（専任教職員数及び平均年齢）（2022年3月31日現在）

	人員数	平均年齢
短期大学教員	15名	51.0歳
高等学校教員	53名	42.7歳
中学校教員	17名	38.4歳
幼稚園教員	19名	36.9歳
本八幡駅保育園	10名	39.6歳
浜野駅保育園	8名	39.5歳
やちまたこども園	13名	37.2歳
事務職員	29名	43.4歳
合計	164名	41.7歳

（注）役員（理事）は除く

10. 土地及び建物の状況

(1) 土地の状況（2022年3月31日現在）

(㎡)

	法人	千葉明德 短期大学	千葉明德中学 校・高等学校	千葉明德短期大学 附属幼稚園	やちまた こども園	合計
校地	0	13,005	67,975	4,550	2,871	88,401
その他の土地	472	0	16,372	0	0	16,844
合計	472	13,005	84,347	4,550	2,871	105,245

(2) 建物の状況（2022年3月31日現在）

(㎡)

	法人部門	千葉明德 短期大学	千葉明德中学校 ・高等学校	千葉明德短期大学 附属幼稚園	やちまた こども園	合計
校舎	0	3,844	12,016	1,712	705	18,277
附属施設	0	0	3,419	0	0	3,419
その他の建物	0	10	48	0	0	58
合計	0	3,854	15,483	1,712	705	21,754

## 1.1. 学生・生徒・園児の数

(2021年5月1日現在)

部門	入学定員	収容定員	学生・生徒・園児数		
千葉明德短期大学	120名	240名	241名	1年	124名
				2年	117名
千葉明德高等学校	400名	1,200名	1,013名	1年	330名
				2年	305名
				3年	378名
千葉明德中学校	120名	360名	207名	1年	62名
				2年	71名
				3年	74名
千葉明德短期大学 附属幼稚園	(1歳児) 15名	315名	270名	1歳児	15名
	(2歳児) 15名			2歳児	15名
	(3歳児) 95名			3歳児	85名
	(4歳児) 95名			4歳児	73名
	(5歳児) 95名			5歳児	82名
明德本八幡駅保育園		45名	38名	0歳児	5名
				1歳児	17名
				2歳児	16名
明德浜野駅保育園		36名	39名	0歳児	5名
				1歳児	8名
				2歳児	5名
				3歳児	8名
				4歳児	6名
				5歳児	7名
明德やちまた こども園		75名	77名	0歳児	2名
				1歳児	7名
				2歳児	10名
				3歳児	16名
				4歳児	20名
				5歳児	22名

## Ⅱ. 事業の概要

### 1. 学園全体の状況

2021年度の学園財政の状況は、事業活動収入24億2,960万7千円に対し、事業活動支出23億3898万7千円となり、基本金組入前当年度収支差額は、9,062万円の収入超過となり、2012年度から10期連続で収入超過となった。(詳細は「Ⅲ. 財務の概要」に記載) ただし、更なる少子化やライフスタイルの変更等、社会的要因による影響を受け、減少傾向が見られる部門もある。募集改善に向けて様々な施策を検討・実施し、更なる経営改善を図っていききたい。

各部門に目を向けると、短期大学については3年連続で定員を超える入学者を獲得し、学生生徒納付金収入・経常費補助金収入の増加により収支も改善され、学園の安定的な経営にも大きく寄与している。

高等学校、中学校については、長引くコロナ禍において他校を凌駕する充実したオンライン授業等の要因により入学者を大幅に増やすことが出来た。(高等学校入学者389名、中学校入学者91名) また、大学合格実績も著しく向上し、それらの好材料をもとに更なる募集改善に繋げていきたい。

認定こども園千葉明德短期大学附属幼稚園については、短大教員との連携による保育の質向上、コロナ禍においても安全・安心に十分に配慮した来園型イベントを継続するとともに、充実した保育環境を視覚的に訴える動画をホームページに掲載する等、広報ツールの改善を図り、積極的な募集活動を展開した結果、昨年度を上回る74名の1号認定(3歳)新入園児を獲得した。

一方、明德本八幡駅保育園については、年度当初から数カ月間定員割れを起こす状況となったが、期中に定員を超える園児を確保するに至った。

明德浜野駅保育園、明德やちまたこども園については、昨年度同様、定員を超える数の園児を確保できた。

保育事業3園とも運営方針、保育並びに教育目標に基づき安定した運営が出来、教職員のきめ細やかな対応や時間を掛けて計画した行事や取り組み等を通して、地域に根ざした園になっている。

### 2. 法人事務局

#### (1) 第2グラウンド用地の整備

当整備に伴う造成工事に要する都市計画法および森林法に基づく開発許可について、2020年1月から千葉市および千葉県と協議を行ってきたところ、それぞれ2021年7月および同12月に得ることができた。また、都市計画法の許可に連動する農地法の農地転用許可も同7月となり、農地部分の借地が同8月から開始可能となった。それにより、全ての関係土地で、使用権利となる賃借権の設定を完了した。

引き続き、それらの借地（土地）については、土地賃貸借契約書に定める買取り方法等の協議を前倒しで行うこととし、同9月から、関係地権者の方々と、条件等の検討を進めてきた。しかしながら、学校法人への土地譲渡に際しては租税の特例（控除）が設けられていることから、買取りを円滑に進めるためその適用手続きを行うこととし、関係地権者との検討を取り止め、先ずその前提となる土地収用法の収用適格事業の認定を受けることとした。現在、同認定を行う千葉県との事前相談を進めているところである。

また、整備着工に向けた諸準備として、埋蔵文化財調査を2か所（面積703㎡）で行うとともに、併せて同所および周辺で長期にわたり放置され堆積している不法投棄物を撤去した。移動経路の安全対策についても検討を行い、2022年度から具体的に関係機関（千葉市、千葉中央署およびJR東日本千葉支社）との協議に入っている。

## **(2) 学園ICT化の推進**

今年度は短期大学の環境整備として既存のWi-Fiネットワークを補強し、短大のどの場所においてもインターネット環境を利用して学習することが可能ようになった。

法人事務局におけるICT化については、全職員へGoogle Workspace for Educationのアカウント配布を完了した。今後はその活用により業務の効率化を進める検討を行っていきたい。2022年度、常任理事会のIT化が進む予定であり、事務局内の業務も連動して効率が可能となる見込みである。

## **(3) 選ばれる学園を目指した環境整備**

少子化時代を迎える中、選ばれる学校になるべく、学園購買部のコンビニ化を進め、2022年2月、Y（ヤマザキ）ショップを開店させた。開店以降、多様なニーズに応える商品を販売し、学生・生徒・園児へのサービス向上及び教職員への福利厚生の実施に繋がられている。

## **2. 千葉明德短期大学**

2021年度は、ここ数年の課題である学生募集について比較的安定した状態が生まれつつあり、これを維持していくとともに、コロナ禍の中で、学生の学びを保障すべくできるかぎりの努力をしながらの取り組みとなった1年間であった。

### **(1) 学生募集**

2020年度から募集定員を120名に変更したが、それ以降3年連続で定員の確保ができています。2022年度募集に関しても、前年度に引き続き離職者等再就職訓練生（保育士養成コース）を受け入れることなく、定員を満たすことができました。現在のアドミッションセンターの募集方針とその実行力、この5～6年アドミッションで取り組んできたことの成果、教員の努力、本学が潜在的に持っていた魅力等が良い方向にあわさ

ってのものである。

2021年度入学生については、124名の入学者のうち100名近くがオープンキャンパスにスタッフとして参加したいという申し出があり、本学への愛着の強さがうかがえた。このよい流れを大切にしていきたい。

## (2) 学生支援

### ①教育と保育実践の連携

“総合保育創造組織”としての附属幼稚園、明徳本八幡駅保育園、明徳浜野駅保育園、明徳やちまたこども園及び系列の明徳土気こども園、明徳そでの保育園には、本学学生の実習先であることはもちろん、ボランティア、有償研修（アルバイト）等、様々な形で学びを深める場として協力いただいている。また、学生の就職先という観点から本学内で説明会を開催し、ともに学び続ける保育創造組織の仲間の育成についても連携を深めてきた。

新型コロナ感染問題から中止していたボランティア・有償研修（アルバイト）等について、2021年度から少しずつ行うことができた。

### ②教育課程での取り組み

2021年度入学生（52回生）から文部科学省・厚生労働省が求める新しい教育課程に完全対応した。成果はまだ見えないが、新しい科目も設けられ、学生たちの学びの深まりに期待をしたい。

本学の学びの原点である「体験から学ぶ」・「学び合う」を実現するとともに、個々の学生に対する支援を充実させていくことが本学の教育の中心である。2020年度は新型コロナ感染の問題から対面での授業が十分に行えず、遠隔による授業が中心となったが、2021年度については、引き続き新型コロナ感染の問題があったが、対面とオンライン授業の併用となった。すなわち、少人数グループで学ぶ科目については対面で行い、講義系の科目を中心にオンライン授業を行うという形である。1年生の「保育内容演習」・「あそび基礎演習」等、2年生の「実習指導」・「専門総合演習・卒業演習（ゼミ）」・「現代社会論」等は学内に滞在する学生数に配慮しつつ対面授業を行い、可能な限り「体験から学ぶ」・「学び合う」の実現に努めた。

実習に関しては、何よりも実習へ行き、現場で学ぶことを最優先とし、実習前2週間の自宅待機期間を設ける、必要に応じてPCR検査を実施するなどして、できる限りの対策を行った。しかしながら、昨年同様、新型コロナ感染問題の影響は大きかった。1年生については、通年の教育実習は、コロナ以前とほぼ同じ形で実施することができたが、1～2月の保育実習Ⅰに関しては、保育所・施設ともに実習の受け入れが難しく規定の日数を実施することが不可能なケースが見られ（保育所・施設合わせて半数程度）、2022年度に演習対応の期間を設けることとなった。2年生については、授業日程の大幅な変更を行い、前年度実施できなかった保育実習Ⅰを6月に、

教育実習Ⅱを10月後半から11月にかけて実施することとなった。6月、10月の実習に関してはほとんどの学生が実習を行うことができたが、8月後半の保育実習Ⅱについては、残念ながら実施できず、演習対応となる学生が1割程度いた。

このような状況の中で、学生の学ぶ意欲の低下も危惧されたところであるが、1年生の退学者は1名にとどまり、2年生の退学者は0名であった。(経済的な理由等による除籍者は1年生2名、2年生1名)

その一方で、卒業が不可となった者、単位を落とす者が例年よりも多かったことも事実である。学生に状況を伝えて面談を実施するなどの対応を行ったが、オンライン授業の科目について課題提出が間に合わず、未提出の状態が続いたり、自分自身で計画的に課題を進めることができずに継続した学習が難しくなるケースが見られた。次年度以降、オンライン課題が続くようであれば、さらに丁寧な対応が課題となる。

### ③学生生活支援の取り組み

学生生活に関しては、新型コロナ感染の問題が大きく影響し、学友会活動、サークル活動等が十分に行えない状況が前年度同様に続いた。

8月に学園祭を開催する予定で準備も行なっていたが、延期の末、中止となった。単発での学生企画を考えたが、それも難しい状況であった。

そのような中で12月に廃品打楽器奏者の山口トモ氏を招いてのコンサートを実施することができ、学年全員が一堂に集まる唯一の機会となった。

また、1月には1年生が2年生の話を聞く交流会を実施した。これまでは、まず授業を行うことが最優先となり、このような機会をなかなか持てずにいたが、学生たちにとって学内での日常を少しずつ取り戻していきたい。

I C Tに関連しては、学内の学生用ネット回線の強化、プロジェクター等未整備の教室の環境整備を行った。教員においては、学びのための新しいツールが増えるという考え方で、I C T活用のための研修を行い、授業でも実際に使いながら活用の可能性を模索した。

### ④まとめ

本年度も前年度と同じく新型コロナ感染問題に振り回された一年であったが、この状況下にあっても本学の学びの原点である「体験から学ぶ」・「学び合う」を最低限実現することができたと考える。一人ひとりの学生に対する丁寧な支援の実践を強く意識させられた年度となった。その成果として、退学者の減少、就職決定率99%を達成できたものとするが、卒業不可の者が例年よりも多く出たことについては、次年度以降の課題として残された。

### (3) その他の取り組み

卒業生が保育現場に勤務しながら月に2回程、学校に戻り現場での体験を基に教員と学びを深める「保育臨床研修コース」(研修生制度)を開講する予定であったが、本年

度も前年度同様希望者がいなかった。

卒業生を中心とした研修会である「保育実践研修会」は、新型コロナウイルス感染問題の影響で、予定していた4回のうち2回の実施にとどまった。

「明德あそぼうカー」についても附属幼稚園とやちまたこども園に限定して再開した。新型コロナウイルス感染問題の影響もあり、新たな展開は今後の課題となった。

公開講座「めいトーク」は、コロナの影響が続き、7月に規模を縮小し卒業生中心で実施した。

「教員免許状更新講習」に関しては、8月後半に2年ぶりに実施したが、2回目の秋の実施は見送った。8月の講習は、来年度からの更新講習廃止の報道の影響もあり、申し込みが定員に満たない状況であった。

子育て支援事業である「たいむ」については、新型コロナウイルス感染問題の影響により開催日と規模を縮小して実施するにとどまった。ちば産学官連携プラットフォーム事業の「こども子育て支援連携ワーキンググループ」の活動として家庭での保育に役立つ映像資料を作成した。

また、NPO法人「千葉市保育者研修センターMANABI」の依頼を受け、本学教員がキャリアアップ研修、千葉市子育て支援員研修に協力した。

同じ敷地内にある附属幼稚園については、本学の明石教授の園長兼務が2年目となり、短大との連携をさらに強めており、昨年度に引き続き短大教員が園内研修に参加する等、保育の質向上を目指す取り組みが行われた。

学生ホール前に、学生たちが楽器の練習を行ったり、パフォーマンスの披露、発表物等を自由に掲示できるステージスペースを新設した。様々な場面での活用が期待される。

## 2021年度卒業生 就職状況

卒業者数	108人
就職希望者数	101人
就職決定者数	100人
就職決定率	99%

## 就職先内訳（2022年3月31日現在）

就職先種別	人数	比率
幼稚園	7人	6.9%
認定こども園	11人	10.9%
保育所	52人	51.5%
福祉施設(保育所を除く)	12人	11.9%
認可外保育施設・学童保育	4人	4.0%

公務員	3人	3.0%
公立臨時採用	4人	4.0%
一般企業等	7人	6.9%

※付記

学生の就職先に関しては保育所への就職率が高い傾向が続いている。(これは本学に限らず多くの養成校での傾向でもある)昨年度は、幼稚園・こども園への就職が例年に比べて多かったが、本年度は、保育所50%強、幼稚園・こども園18%弱と、一昨年度(2019年度)と同様の結果であった。幼稚園・こども園への就職が増えたのは昨年度だけのことなのか、何か変化があるのかはこのデータから語ることはできない。

また、福祉施設への就職希望は、例年20%程度であるが、今年度に関しては少なかった。

### 3. 千葉明德高等学校

2021年度は、中学校62名、高校330名、中高合計392名の新生を迎えてのスタートとなったが、2022年度入試では、中学校91名、高校389名、中高合計480名と予想を超える多くの入学者を確保することが出来た。この2年間は、中高ともにコロナ禍において難しい学校運営であったが、2021年度は、教職員の様々な工夫と一致協力した姿勢の下で、生徒募集でも予想を大きく上回る結果に到達することが出来た。また、大学進学実績も飛躍的に向上した。これは、この間進めてきた『進学校化』という方針のもとでの成果であり、今後の生徒募集への大きなアドバンテージになっていくはずである。全ての教職員が『変えていく意志』を明確に持ち『変える力』として結集した成果であると言える。

この間、進めてきた『進学校化』という学校改革目標のもとで、名実ともに進学校としてのイメージが定着してきた。2021年度は、2030年を見据えた教育の方向性(中長期方針)を『思考する学びへの進化』と定め、この1年の教育活動を展開してきた。

#### (1) 教育活動への取り組み

①2022年度入学生から新課程への移行があり、具体的には新科目『探究』への対応及び『観点別評価』の実施に向けて、2021年度より新たに「探求・ICT推進委員会」を設置し準備を進めてきた。これにより教育課程表に反映させていくことを考慮した上で具体的な方向性を確認することができた。この『探究』との関連もさることながら、敢えて確認しておく、今後本校が目指す『思考する学び』への挑戦とは、すべての教科や各学年・分掌業務に臨む私たち教職員の教える側の視点・姿勢を表明したタグラインであり、生徒に対しての学びの質の指針でもある。よって2022年度からは、『探究・ICT・教育課程推進委員会』として、各部署でのやるべきことを整理し職場に提起していく。

- ②大学入試へ対応を意図し、進路学習指導室に非常勤の学習支援チューター（元予備校職員）を配置した。また、自習室を拡張し、面談室としても利用できるようにした。
- ③ICT環境を整え、一人一台のiPadを持つての教育の展開も5年目となった。コロナ禍にあつて、教職員の合い言葉は、『生徒の学びを止めない』という認識を確認し、即時、時間割に沿ったオンライン授業を展開することができた。結果的に2021年度は、都合二ヶ月間に亘ってオンライン授業を展開した。（9月、1月中旬～2月中旬）

## （2）進路指導について

2021年度卒業生376名の進路は以下の通りである。

	男子	女子	合計	比率
国公立4年制大学	2	5	7	1.9%
私立4年制大学	152	113	265	70.5%
短期大学	0	8	8	2.1%
各種専門学校	24	27	51	13.6%
就職	7	1	8	2.1%
その他（浪人・留学等）	30	7	37	9.8%
総合計	215	161	376	

### 【主要大学の合格実績】（浪人含む）

千葉大学 5名、茨城大学1名、宇都宮大学1名、東京芸術大学1名、山梨大学1名、高知大学1名、都留文科大学1名、北九州市立大学1名、千葉県立保健医療大学1名、早稲田大学1名、上智大学1名、東京理科大学12名、津田塾大学1名、明治大学12名、青山学院大学4名、立教大学10名、中央大学6名、法政大学11名、学習院大学7名、立命館大学2名、東京女子大学1名、日本女子大学3名、成蹊大学9名、成城大学1名、武蔵大学7名、明治学院大学2名、獨協大学6名、國學院大学9名、東邦大学14名、北里大学1名、日本大学64名、東洋大学42名、駒澤大学13名、専修大学19名、龍谷大学3名、芝浦工業大学2名、順天堂大学2名、東京農業大学10名、神田外語大学9名、立正大学15名、共立女子大学4名

### 〈考察〉

- ①2022年度入試は、『大学入試改革』2年目であった。昨年度の経験・データを活かし、また最新の情報を入手しながら、まだまだ手探りの状況もあったが進路指導に全力で取り組んだ。推薦入試では、総合選抜において初の千葉大合格者も出

た。また、今年度より進路学習指導部の部屋に非常勤の学習支援チューターを配置し（元予備校職員）、最新の情報とデータをもとに教員との情報交換や受験生への講演・面談・アドバイス等を積極的に行い、絶大な効果があった。

- ② 2017年度から文科省の方針に基き東京圏の私大は合格者を絞る傾向が続いているが、2021年度入試においても各大学は多くの『補欠合格』を出し、本校生徒も昨年度同様、最終の進路決定に悩んだ生徒が数多く見受けられた。
- ③ 2016年度以降、四年制大学への現役進学者が7割を越える状況が継続しており（2021年度は72.4%）、『進学校化』という学校改革目標が着実に果たせている。
- ④ 東京圏の私大の難易度が高まっている中、現役生徒で東京理科大及びGMARCHに延べ62名、日東駒専に延べ120名以上が合格した。また、公立にも千葉大5名を含む11名が合格した。

### （3）部活動と特別活動について

アスリート進学コースを中心とする部活動の主な成績は以下の通りである。

チアリーディング部	関東チアリーディング選手権 JAPAN CUP 2021	準優勝 3位
硬式野球部	全国高校野球選手権千葉県大会 千葉市高校野球大会	ベスト8 優勝
サッカー部男子	全国高校サッカー選手権千葉県予選	ベスト8
サッカー部女子	千葉県高校サッカー選手権大会	ベスト16
柔道部	千葉県新人柔道大会団体 千葉県新人柔道大会個人	3位 準優勝、3位（各1名）
バスケットボール部	千葉県新人戦地区予選	1位通過
水泳部	千葉県高校選手権水泳大会 千葉県高校新人大会 全国通信制水泳競技大会（メドレーリレー） 800M自由形（女子） 100M バタフライ（男子） 200M バタフライ（男子）	4位 男子7位・女子3位 出場 1名出場 2名出場 1名出場

- ① 部活動については、コロナ禍の中で運動系・文化系とも多くの大会や発表会が中止となり、特に最後の発表の場、最後のまとめの場を失った3年生の心のケアに苦心した。そうした中、生徒は出来る範囲で精一杯努力し、上記の成績をはじめ数々の立派な成績を残した。

②コロナ禍において以下の行事等が中止、延期等を余儀なくされた。

- 高2の海外研修旅行→中止
- 遠足(全学年)→中止
- 語学研修プログラム(ブリティッシュヒルズ研修、オーストラリア短期留学、セブ島短期語学研修)→すべて中止
- 各種行事(文化祭→短時間開催。体育祭→球技大会に変更。合唱コンクール→延期)
- 保護者会→中止
- PTA活動→ほぼ中断(一部広報活動などを実施)

※コロナ禍は、これまで学校として培ってきた様々な行事等の経験や伝統も崩れてしまった。今後どう立て直していくかが大きな課題である。

③イチロー氏による高等学校硬式野球部指導

元メジャーリーガーのイチロー氏による高等学校硬式野球部指導を企画し、実現に至った。2021年12月に行われた指導では、競技力の向上に留まらず、「行動する哲人」を地で行くイチロー氏の姿勢に触れることで、生徒達にとってその後の生き方にも影響を与えるような唯一無二の経験を提供することができた。また、その模様はテレビ、新聞、インターネット等を通して全国に大きなニュースとして発信され、高等学校の知名度・注目度の向上にも繋がった。

#### (4) 生徒募集の取り組み

2022年度入試では、中学校91名、高校389名、中高480名と予想を越える多くの入学者を確保することが出来た。入学者が増加した主な要因は以下の2点であると考えられる。1点目は、コロナ禍でのオンライン授業等への対応について公立との差別化が進み、加えて私学助成の充実等が追い風となり第1志望者が増加した点、2点目は、偏差値50以下の公立高校では倍率が出ないという状況下において、本校受験者の多くが倍率の出る偏差値53以上の公立高校との併願者であった点である。(公立一本化2年目にし、偏差値53程度を境に一段と二極化が進行したと思われる)公立高校の一本化入試が継続していく中で、今後もこの傾向は続いていくと見られ、更なるレベルアップを図っていく好機だと考えられる。

具体的な募集活動としては、学校訪問に加え、塾訪問を例年以上に積極的に行った(今後は、より一層塾との関係が重要になってくる)ことに加え、イベント(夏休み体験入学会・学校説明会・入試相談会等)をすべて来校・対面型で行った。

(結びに)

千葉県内の中学生数が大きく減少していく中、本校は『進学校化』という学校改革を進め、着実に受験生のレベルアップを図ってきた。このことが今回の生徒募集の入学者数にも大いに反映されている。これは、小手先の改革ではなく、ここ数年間、全教職員が心血を注いで授業・補習体制を整え、部活動を活発化させ、生徒主体の学校行事の育成に奮闘

努力してきた成果であることに他ならない。現状に甘んじることなく今後の学校運営を進めていきたい。

#### 4. 千葉明德中学校

2021年度の千葉明德中学校・中高一貫コースは、開校から11年目に入り、「思考する学び」を中心に据えた新たな段階へと踏み出した1年だった。開校以来10年が経過し、本校ならびに中高一貫コースに対する評価も定着しつつあり、入学志願者数・入学者数も順調に増えてきたが、2021年度はコロナ禍の影響を大きく受け、11期生の入学生は62名2クラス体制となった。しかしながら、これまで6期生までの卒業生を送り出す中で、本中高一貫コース6年間の指導内容も充実してきており、特に総合学習や教科指導、また学校行事等において、探究心やプレゼンテーション力を育成してきたことが、上級学校に進学して以降も大きな力となっていると確信している。こうした取り組みの結果が、この数年の間に中学受験において高く評価されるようになり、安定的な募集の成果へとつながっていると言える。

##### (1) 教育活動と成果について

これまで本校ならびに中高一貫コースは、建学の精神に基づき生徒一人ひとりの豊かな成長を目指し、教育目標である「行動する哲人」を具現化するために「思考する学び」への進化に取り組んできた。

近年では、大学入試改革や新学習指導要領の導入といった国レベルの教育改革に先立って、探究活動やICT教育、グローバル教育といった面において、本校独自の先進的な取り組みを進めてきた。具体的には、生徒一人ひとりが自らのiPadを活用することで、主体的・対話的な学びを推し進めながら、その成果をプレゼンテーションや課題研究論文を通じて発表する取り組みを行っている。また、それらの成果を、ポートフォリオ・シートによって振り返る作業を積極的に行っている。これらの実践は、教員研修や実践報告などを通じて、絶えず新しい情報を得ながら指導内容を改善している。

##### (2) 進路指導について

2021年度卒業 中高一貫コース6期生32名の大学合格実績は以下の通りである。

千葉大学4名、高知大学1名、千葉県立保健医療大学1名、  
早稲田大学1名、東京理科大学6名、学習院大学4名、明治大学3名、  
青山学院大学2名、立教大学2名、中央大学2名、法政大学2名、  
立命館大学1名、成蹊大学1名、武蔵大学2名、日本大学2名、  
東洋大学1名、駒澤大学1名、専修大学1名 他

※中高一貫コースでは、その特長である探究活動を通して培った情報収集力、情報発信力、プレゼンテーション力等を活用することで、総合選抜型入試（プレゼンテー

ション入試)において難関大学の合格を果たす生徒が増える傾向にある。今年度は千葉大1名が総合選抜型入試で合格を果たした。

### (3) 生徒募集の取り組み

2022年度入試も、これまでの募集体制を維持しつつ、学校説明会や模試での説明会などを実施してきた。

学校説明会では、本校の教育の特長をアピールするため、生徒のプレゼンテーション等、生徒の活動を積極的にアピールする紹介を中心に展開してきた。特にiPad等のICT機器を利用した発表や英語によるスピーチ等は、入試広報において全面に打ち出してきた部分である。

こうした教育の特長は、今年度の入試においても、特に適性検査型入試やルーブリック評価型入試等で、作問やテーマ設定で積極的にアピールし、受験生の思考力を問う内容を積極的に取り入れた。

以上の取り組みが功を奏してか、2022年度入試は、受験者数345名、入学者数91名という結果につながった。2021年度入試がコロナ禍で入学者数を大幅に減らした(62名)が、2022年度は入学者91名となり、開校以来最多の入学者を迎えることになった。

### (4) その他の取り組みとその成果

#### ① ICT教育の推進・整備

全生徒がiPadを持つようになってから、すでに6年目となる。これまで、ロイロノート、Google for education等のさまざまな教育プラットフォームを導入して活用してきた。コロナ禍で活用が更に飛躍したが、これからは学びのネットワークを国内外で広げていくことが大きなテーマとして掲げられる。

文科省が進めるMEXCBT(国や地方自治体による公的CBTシステム)やデジタル教科書の導入によって、公教育を取り巻く学習環境が大きく変化しつつある。これらの環境整備と本校の対応を引き続き検討していく必要がある。

ICT機器においては、オンライン授業の実施や、学校行事や総合学習、教員や生徒間の連絡等、ますます活用の場面が増える中であって、円滑な学校運営のためにハード面でも環境整備が求められている。これらについて今後の課題を明らかにしてきた。

#### ② 総合学習・総合探究の系統化

開校以来取り組んできた1・2年の「土と生命の学習」と3年の「課題研究論文」は、その改善を進めつつ、中学校課程での中核と位置づけられるものである。コロナ禍でありながら、オンライン等を活用してハイブリッド型のゼミ活動やプレゼンテーションを進めることができ、より充実したものとなった。

4年生以降（高校課程）の総合探究のあり方がテーマであったが、2021年度から3年の「課題研究論文」と同様に、個別あるいはグループでテーマを設定して研究を進め、ポスターセッションで発表をするという探究活動の取り組みを行った。この取り組みは、大学や学会への積極的なエントリーによって、外部への広がりを見せている。

## 5. 認定こども園千葉明德短期大学附属幼稚園

### (1) 運営方針に対する成果について

2020年度の報告書で示した通り、豊かな自然に囲まれた環境の中で、遊びや生活を通じて子どもたちが自らの意志と力で学び、育つという本園の保育理念とそれに基づく保育実践は、変わることなく引き継がれている。現在の保育指針、幼稚園・こども園の要領にも示されている、いま必要とされている「資質・能力」という括りの中にある知識や技能、思考力、判断力、表現力、人間性等の育ちは、本園に於ける「遊び」にその多くが内包される。その一方で、子どもたちの主体性による自然科学的なアプローチを伴った興味関心、芸術分野の涵養による表現力の育成と、許容や受容にみちた人間性の獲得は、園からの能動的な働きかけが契機となり、大きな成長をもたらす可能性をもつ。

2021年度も一連のコロナ禍の流れにより、園運営において多くの制約を受けた。登園自粛要請による登園者数の減少やコロナ陽性者対応としての休園が続き、特に下半期は感染者数の増加により1クラスにつき1桁の登園者数が続き、行事の準備等に少なからず影響があった。その対応として、各行事を学年毎に開催した他、その行事を実施する本来の意味を再考しながら他行事との統合を進めるなど、コロナ後の園運営の在り方を一歩前進させた。そして、本園の恵まれた園庭環境を生かした外遊びの時間確保により、コロナ禍の影響は最小限に抑えながら、同時にこれまでの形骸化した園行事の再考を促す機会を得たことで長年の懸案事項だった行事のスリム化、日常の保育に内包される遊び、表現の在りようを再認識した。

### (2) 保育目標に対する成果について

2020年度より短期大学の附属幼稚園として、本来の協力体制を築くべく園内研修や預かり保育における「あそぼうかープロジェクト」をはじめとした連携を深めているが、新たな視点、客観性が本園に影響を与える側面は大きく、常に更新され続ける思考を持つ組織であるよう方向づけがなされてきている。時代に即した保育の在り方を前向きに考える職員の意識が表面化してきたことで、時代による子どもの様子の変化、保護者のニーズに柔軟に対応していく園のあり方を職員全体で共有するタイミングであると考え、2022年度に向けて、保育内容について細部までの共有、職員の意識の刷新につなげる礎をつくる年度となった。

### (3) 募集活動に対する成果について

これまでの園見学会に比べて、案内する職員数を増員し手厚い体制を取った。ホームページにドローン撮影による新規動画をアップしたことで、外部に伝わりづらかった、恵まれた園庭環境や園の魅力を視覚的に発信できた。また、園舎の外壁塗装工事を行なったことも園庭環境との相乗効果が表れたと推察する。その結果、3歳児1号認定児74名の入園につながり、前年度と比較して7名増加した。

入園説明会については、コロナ禍での対面説明会への参加を不安に感じる方々のために、オンデマンド版の入園説明会を作成し配信した。全体参加者の内、約30%がオンデマンド版に参加しており、次年度以降も引き続き需要を見ながら配信を考えたい。

2年連続で入園者数が増加し定員充足率100%も視野に入ってきた。次年度募集活動について更なる充実を図り、これまでの方法を踏襲して安定した募集体制の構築へとつなげる。

### (4) 新たに行った取り組みとその成果について

2021年度下半期より給食業者を株式会社幼稚園給食に変更した。以前から、山の園舎における自園給食を経て年少組に進級する保護者、または在園児の保護者から給食に対するご意見は頂戴していたが、変更後は子どもの残食率にも改善が見られた。この結果を、食育に関わる全ての事項において良とするわけではないが、園児の満足度は概ね高い様子である。

ICT関連では、2021年度下期から新たに動画配信サイト「おうちえん」を活用し、園生活における子どもの様子を動画、写真で保護者に配信した。保護者からも好評で、特にコロナ禍で来園機会が減少している時期での採用は良い選択であったと感じている。

### (5) 園児数の動向等

#### 【月別在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍数	268	270	268	267	266	266	266	265	266	267	267	267

#### 【年齢別在籍数/3月】

年齢	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在籍数	15	15	84	72	81

#### 【職員構成/3月】(保育教諭1名、パート保育教諭1名 育休)

職種	園長	副園長	主幹	保育教諭	保育教諭 (パート)	栄養士	調理員 (パート)	看護師 (パート)	職員 (パート)	事務
人数	1	1	2	15	15	1	2	1	2	1

## 6. 明徳本八幡駅保育園

### (1) 保育園運営方針に関する成果について

#### ①保育・教育目標と成果について

コロナ禍2年目を迎え、地域性もあって定員に満たない年度開始となったが、各年齢ともに、保育の方向性、小人数体制の利点を再確認しあうことに努めた。

②自主的な発言を引き出せるよう、中堅職員がパイプ役となって進めてきた。毎日行っていたミーティングを一日おきの実施にし、打ち合わせの時間を捻出するようにした。この試みによりパート職員との打ち合わせが活発になり、保育を組み立てる上でいい取り組みとなった。

③職員の自己研鑽としての研修は、ZOOM等の形式で開催されるものが増加し、キャリアアップ研修においてもユーチューブ配信など、一定期間内に受講するという幅が設定されていたことで、受講しやすい傾向にあった。

④補助金交付対象である特別保育事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の観点から1回に2家庭までの受け入れとして、状況を見ながら実施してきた。体調不良児対応型保育事業は例年通り実施。一時預かり事業においては、毎日の健康状態の把握が難しいことから、今年度は受け入れを行わなかった。

### (2) 募集活動と成果について

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一環から、地域子育て支援「ぼっぷスマイル」小規模化して開催せざるをえなかった。この活動は、園及びその保育内容を周知する園児募集活動の重要な施策でもあり、入園に繋がった。本園にとって大切な事業であり、その継続のために次年度は角度を変えて取り組み方を考える発想の転換が要されると考えている。

### (3) 新たに実施した取り組みとその成果について

①「ぼっぷスマイル」実施のお知らせ・予定表をシャポー本八幡（本園が入居しているJR東日本都市開発が管轄する駅チカ商業施設）の授乳スペース2か所に掲示をさせてもらった。

②保育園ホームページのメニューバーに「ぼっぷスマイル」を新たに追加し、地域子育て保護者の目に触れやすいようにした。また、保育園広報の手段として、在園児保護者が日ごろ悩んでいることを題材に子育てに関する情報を広く発信してきた。保育園で実施している育児に関する方法については閲覧数が軒並みアップし、その必要性を実感することができている。「ぼっぷスマイル」ホームページ、Twitterの閲覧数は以下の通りである。

実施日	4/13	4/23	5/10	5/18	6/3	6/22	7/6	7/28
HP 閲覧数	2001	1415	478	1304	1096	1238	1374	1500
実施日	8/6	9/2	10/8	11/2	12/13	11/3	2/2	3/4
Twitter 閲覧数	523	296	893	694	697	453	791	718

#### (4) その他

本園周辺地域は川に阻まれた地域であること、地震発生が多いことなどから、自然災害による大規模災害の緊急時に備え、避難情報発令時における保育園の対応方法の見直しを行った。

また、園内のコロナ感染者、濃厚接触者特定後の保護者への連絡手段として、メールアプリの導入に至った。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策の取り組みに重点を置き保育運営努め、大きな休園措置に至る状況はなく過ごせた。

#### (5) 園児数の動向等

市川市役所と速やかな連携をとり、定員数の充足に努め、月々の募集において減少を補うことができた。

懸念材料として0, 1歳児は兄弟姉妹との同一入園目的、2歳児は幼児クラスのある保育園へ転園希望を有した家庭が多いことが挙げられる。それにより、園児数の変動が生じ、先の予測が難しい状況となっている。

##### 【月別在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍数	38	38	40	39	42	46	46	46	45	49	49	49

##### 【年齢別在籍数/3月】

年 齢	0歳児	1歳児	2歳児	合 計
定 数	9	18	18	45
在 籍	14	19	16	49

##### 【職員構成/3月】

職 種	園 長	主 任	副主任	主任看護 師	保育士	栄養士
人 数	1	1	1	1	6	1
職 種	パート(常)調理師	パート(非)調理員	パート(常)保育士	パート(非)保育士		
人 数	1	2	7	4		

## 7. 明德浜野駅保育園

### (1) 保育園運営に対する成果について

園児数については、40名でスタートし、下記に示す園児の推移があった。転居による退園はあったが、在園児の兄弟姉妹の入園希望が多く、全員を希望通りに随時受け入れることができた。それにより、保護者との信頼関係の構築や安定的な保育園運営に成果があったと考える。

### (2) 保育理念及び保育目標と成果について

学内異動や新規採用により職員の入替わりがあったが、保育目標や本園で大切にしていること等を再周知しながら、新体制作りをしていった。昨年度に引続きコロナ禍での保育となったが、「子どもを真ん中に」という本園の基本方針の基で保育を行ってきた。保育参加や懇談会等の保護者行事の中止もやむを得ない中、昨年度の経験や本園の特性、本学園の環境を活かして、「おたのしみ会」、「秋の遠足」そして「卒園遠足」及び「卒園式」を行うことができ、子ども達の成長発達や進級・進学に向けての意識向上に良い結果を生むことができた。また、そのことにより、保護者からも賛同の意見をいただき、更なる信頼関係の構築に繋げることができた。

### (3) 募集活動と成果について

認可園は直接的な園児募集ができない上に、コロナ禍で見学者を園内に入れることが難しい状況で、園舎の外から短時間で室内の様子を見ていただくという案内方法を取らざるを得なかった。その際、入園希望者の相談には丁寧な対応を心がけてきたこともあり、次年度の新入園児は、第一希望での入園申請がほとんどであり、その成果が表れていると推測する。

また、1月以降の入園児については、在園児の兄弟関係の入園であり、希望する保護者全員の意向に応えられるよう配慮していった。

### (4) 新たに行った取り組み等とその成果について

#### ①新型コロナウイルス対応について

千葉市幼保運営課からの指示に従い、手指消毒やマスクの着用・衛生管理等の対策を講じている。緊急事態宣言やまん延防止等重点施策が発せられる中、昨年度同様に感染対策を徹底し、感染のリスクを下げるような取り組みを心がけてきた。その結果、現在に至るまで休園措置を講じることなく安定的に運営することができている。

#### ②保護者支援と要配慮保育児の受け入れについて

他園に在園していた要配慮保育児を受け入れ、保護者の負担を軽減し、安定した生活を送ることができるようにしていった。職員のスキルアップはもとより、保護者支援の一環としても成果が出ている。

## (5) その他

### 全国保育士会との繋がり強化

本園園長は今年度より千葉市保育協議会保育士会 会長を委嘱され、千葉市だけでなく、全国保育士会の活動に参加している。ZOOMでの会議や委員会活動により、保育の動向やコロナ禍での各地の現状及び研修の内容等が直接的に得られることから、自園にも速やかに反映することができ、感染対策や保育の質の向上、研修内容の充実に繋がっている。

## 6. 園児数の動向等

### 【月別在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍数	40	39	41	41	41	41	41	41	40	41	42	43

### 【年齢別在籍数/3月】

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在席数	8	7	6	9	6	7

### 【職員構成/3月】

職種	園長	主任	副主任	保育士	栄養士	看護師	調理師
人数	1	1	1	10	1	1	2

## 8. 明德やちまたこども園

### (1) 運営方針に対する成果について

在園児数を定員の120%に近いところまで増やし収入の拡大を考えたが、年度中、1号から2号への変更がなく2年続け定員の120%を超える在籍となった。(2021年度、1号園児の募集を3歳のみにしたことで在籍人数は適正となった。)

園舎の建て替えを目的とした資金を少しでも多く積み立てていけるよう心掛けていきたい。

園舎の建て替えにより、乳児の床面積を広げたり、一時保育の部屋を増設したりすることで更なる園児数の増員と収入の安定化に繋げていきたい。

### (2) 教育目標などに対する成果について

教育理念を具体化したため、より具体的に日々の保育に生かせるようになった。また職員の「自己評価シート」について、前年度と比較しても「園の理念、方針を外部者に説明できるか」の項目は高得点となっている。日々の保育の中で意識して取り組むよう、乳児会議、幼児会議を充実していきたい。

### (3) 募集活動に対する成果について

ホームページの閲覧数は1年間で70,000件以上となっている。コロナ禍で子育て支援センターの活動も制約されている中、ホームページの役割は大きかった。

子どもの生活について写真を使って説明した「その場面の幼児教育の意図や子どもの育ち」冊子や、園のおやつレシピ本を発行し、市内の学校、保育施設に配布、園見学や子育て支援室の利用者にも配布した。

2021年度の1号子どもの募集は、「3歳児5名」のみであったが、定員以上の申し込みがあり、全員を受け入れることは出来なかった。また4歳児の入園希望の問い合わせも数件あった。

### (4) 新たに行った取り組みについて

支援センターを利用する保護者に「オクレンジャー」(携帯通信を利用したコンテンツを送る)の利用をお願いした。

「ウクレクラブ」「ミニ新聞クラブ」が母親たちで立ち上げられた。

これらの事で園の行事や取り組みなどの発信が広がった。

### (5) その他特記事項

保育者の資質向上のための取り組みとして、職員会議の中に「事例研究」を組み込んだ。

短大とのコラボも続けており、子ども達のみでなく保育者にも思考、考察を通し保育を深めることが出来た。

より良い保育内容の実践の為出来れば10周年を目標に園舎の建て替えを行いたい。

### (6) 園児数の動向等

#### 【月別在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍数	78	77	77	78	79	79	81	81	84	83	83	82

#### 【年齢別在籍数/3月】

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在席数	5	7	11	17	20	22

#### 【職員構成/3月】

職種	園長	主幹保育教諭	指導保育教諭	保育士	栄養士
人数	1	1	2	19	1
職種	看護師	調理師	事務	用務	
人数	1	1	1	1	

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 事業活動収支の推移

(単位：千円)

		科目/年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
		教育活動収支	収事業の活動	学生生徒等納付	949,118	996,790
手数料	33,433			29,631	28,231	29,703
寄付金	14,580			11,453	14,250	12,997
経常費等補助金	1,088,950			1,181,173	1,238,727	1,206,747
付随事業収入	136,926			141,570	102,230	76,893
雑収入	113,964			82,413	43,745	71,637
教育活動収入計	2,336,971			2,443,030	2,412,179	2,413,636
支事業の活動	人件費		1,623,874	1,635,553	1,629,616	1,649,141
	教育研究経費		417,598	472,923	425,892	444,604
	管理経費		222,675	259,338	228,759	223,570
	徴収不能額等		0	0	381	39
	教育活動支出計		2,264,147	2,367,814	2,284,648	2,317,354
<b>教育活動収支差額</b>			<b>72,824</b>	<b>75,216</b>	<b>127,531</b>	<b>96,282</b>
教育活動外収支	事業活動収入の部		受取利息配当金	521	515	515
		教育活動外収入	521	515	515	509
	事業活動支出の部	借入金等利息	18,790	18,367	17,653	16,094
		教育活動外支出	18,790	18,367	17,653	16,094
	<b>教育活動外収支差額</b>		<b>△18,268</b>	<b>△17,852</b>	<b>△17,137</b>	<b>△15,585</b>
<b>経常収支差額</b>			<b>54,555</b>	<b>57,346</b>	<b>110,393</b>	<b>80,697</b>
特別収支	収事業の活動	資産売却差額	0	0	0	0
		その他の特別収	16,807	11,733	14,196	15,461
		特別収入計	16,807	11,733	14,196	15,461
	支事業の活動	資産処分差額	2,105	9,251	186	5,539
		その他の特別支	13,672	16,000	13,672	0
		特別支出計	15,777	25,251	13,858	5,539
<b>特別収支差額</b>		<b>1,030</b>	<b>△13,517</b>	<b>338</b>	<b>9,922</b>	
[予備費]						
基本金組入前当年度収支差額			55,585	43,846	110,732	90,620
基本金組入額合計			△193,501	△46,844	△133,543	△69,311
当年度収支差額			△137,916	△2,998	△22,811	21,308
前年度繰越収支差額			△3,908,089	△4,046,005	△4,049,003	△4,071,814
基本金取崩額			0	0	0	0
翌年度繰越収支差額			△4,046,005	△4,049,003	△4,071,814	△4,050,506
事業活動収入計			2,354,299	2,455,279	2,426,890	2,429,607
事業活動支出計			2,298,714	2,411,432	2,316,158	2,338,987

(注) 金額は、各項目において千円未満を四捨五入して記載しており、合計額が一致しない場合もある。

2021年度決算の基本金組入前当年度収支差額は、事業活動収入24億2,960万7千円に対し、事業活動支出は、23億3,898万7千円となり、1億1,073万2千円の収入超過となった。(2012年度から10期連続での収入超過)また、当年度収支差額は、2,130万9千円の収入超過となった。

## 2. 施設・設備への投資額の推移

(単位：千円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
施設関係支出	118,975	208,589	267,613	135,826
設備関係支出	16,497	17,966	57,988	32,131
合計	135,472	226,555	325,601	167,957

2021年度の主な施設関係支出については、土地支出にて、第二グラウンド用地としてFRE社から、また千葉市から赤道の購入を行った。建物支出においては、高等学校PC教室のリニューアル工事、高校生徒ホール、学園本館、幼稚園森の園舎空調機リニューアル工事を実施し、また森の園舎では、文科省の指定する非構造部材の耐震対策工事(外壁改修工事)を行い防災機能の強化を図った。短期大学では、学生たちの発表の空間として、学生ホールに隣接したウッドデッキとステージが新設され、年度末に完成引き渡しが行われた。建設仮勘定は、第2グラウンド取得に向けた開発許可申請業務、不動産鑑定業務等の準備経費が計上された。

設備関係支出では、高等学校においてPC教室リニューアルに伴いプロジェクター、AV機器、生徒用机・椅子42台の入替を行った。また、中学校メビウスホールにおいてもプロジェクターの入替を行った。やちまたこども園では、3連式の大型プールを新設した。管理用備品では、電話交換機の入替整備を行った。

図書支出については、全部門合わせて1,813冊の購入をし、図書館蔵書は総計66,887冊となった。

## 3. 借入金の推移

(単位：千円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
長期借入金	508,257	553,399	713,416	704,943
短期借入金	417,803	376,303	343,983	306,873
合計	926,060	929,702	1,057,399	1,011,816

(注) 各年度とも3月31日現在の残高を記載している。

長期借入金は、前期末残高7億1,341万6千円に対し、新規借入8,840万円、期中返済金9,687万3千円を計上し、期末残高7億494万3千円となり、前年比847万3千円の減少に転じた。短期借入金の期中運転資金は、借入4億6,000万円に対して、返済5億1,000万円であり、期中運転資金の借入残高は5,000万円の減少となった。その結果、返済期限が1年以内の長期借入金の減少を含めて、長期及び短期の借入金残高の合計は、前年比4,558万円減少し、10億1,181万円の残高となった。











